

篠山市農都創造計画(案)に関するパブリックコメントの趣旨と回答

受付期間 平成28年12月21日(水)～平成29年1月19日(木)まで

人数:3人

件数:6件

No	コメント・意見趣旨	回答
1	<p>農業者の所得や集落営農の収益について触れられていないのでは。金銭的問題は安定的に農業を行うために欠かせない課題である。専業農家や集落営農は所得、収益向上を目指すための計画を示してほしい。</p>	<p>農業者や集落営農組織の収益については、「篠山市農業経営基盤の強化の促進に関する基本的な構想」において、農業経営の規模、生産方式、経営管理の方法、農業従事など営農の類型ごとに具体的な農業経営の指標例を定めています。</p>
2	<p>「集落営農組織の設立と法人化の支援」「集落営農組織の経営効率化の支援」について集落営農組織の法人化や経営強化は認定農業者制度のいうところと同じ。集落営農組織の認定取得を推進する内容を入れては。</p>	<p>集落営農組織の認定取得を推進する内容については、継続性と発展性を目指す集落営農組織の法人化への誘導を進めるなかで、経営改善計画の認定取得を推進します。</p>
3	<p>農業は第一次ではなく、第一義産業である。 農業は人間の生存にとって必要不可欠の食糧の生産をしている。 上記二つの意味するところは何か。 とすれば農業は食料だけを生産していると受け取られる。そうするとすぐに食料自給率云々ということが言われる。 そうではないのだ。これらの文章全体が意味しているのは食料だけではなく、食糧を通じて人間の生存も農業は生産しているということである。 農業は食料と生存を生産するがゆえに、第一義産業である。 作物を栽培している者が、育成するわが子を育てるようにということであるが、これは不十分な言い方である。 作物(植物)は全方位に葉を拡げて、自らを生産している。 栽培している者は作物と同時に、作物を通して自らを生産しているのだ。 農業に対する施策が往々にして猫の目のように変わり、六次産業化など悪い冗談が言われるのは、農業が本来的に持つ生存の生産を捨象しているからである。勿論反対の云い方をしてもよい。ないがしろにされた「生存の生産」が施策をクルクル変化させ、悪い冗談を言わせているんだと。 〈農都〉とは何か。食糧生産が盛んで、規模が大きいだけが農都たるゆえんではない。 〈農都〉すなわち農のメトロポールとは、農業がそこに生まれ、そこへ帰っていく〈生存の生産〉である。</p>	<p>ご意見の趣旨については、本市の農業施策を推進するうえで根幹にあたるものと考えます。貴重な意見として今後の農業施策の考え方に反映したいと考えます。</p>

<p>4 「新しい特産農産物が広まっている」というような項目を設定してもらいたい 常に強調されている「伝統的農産物」、つまり黒大豆・山の芋・栗などの農産物は栽培面積、生産量が減少傾向ないしは横ばい状況であることは周知の事実である。 行政としても生産拡大に様々な施策をとっておられるが、今後とも難しいのではないかな？ 耕作放棄地を防ぐためにも既存の農機具も使用できる作物、例えば小麦やソバなどが考えられる。市内に増えている蕎麦屋、パン屋も「地場産原料」として利用できるのではないかな。若い世代、女性などを念頭に置いて考えてみてほしい。黒豆、山の芋、小豆など若い人の好みにあっているだろうか？</p>	<p>年々農業従事者が減少しており、従来からの伝統的農産物の生産維持や拡大が課題となっています。このような現状から、更に新たな特産農産物を開発し広く普及することより、先人から受け継いだ農産物の振興を重点を置いています。</p>
<p>5 新しい特産品開発の推進において、具体的なイメージを出すべき いわゆる「伝統的農産物」は、消費者は加工品としてよりも一次産品として食することが一般的である。 略 篠山市農産物の高価格が商品化の支障となっていると思われる。「篠山産農産物を使用した商品づくりを進めるとしても、具体的なものを想定して挙げられているのか疑問を持っている。 黒豆味噌、黒豆納豆など黒豆商品、栗納豆、栗ようかんなどの栗商品…など既存の商品を考えていくと、さらにどんな物がイメージされているのか？業者に任せるといっていいでしょうか。</p>	<p>ご意見のとおり、篠山産の「伝統的農産物」は素材としての価値が高いことから、加工せずに一次産品としての流通が多いのが現状であり、大量に加工品を製造するような状況にありません。現状では、小さい規模ながら篠山産にこだわった加工品を開発する農業者や事業者、まちづくり協議会などがあり、今後もそのような活動を支援することを考えています。</p>
<p>6 「はじめに」に関して 私たちのまち篠山は、…古代から丹波国(たんばのくに)にあったことから「丹波篠山」と言われています。丹波高地の山々に囲まれ、標高200mを超える篠山盆地の中央に拓かれた肥沃な農地や、昼夜の寒暖差が生む幻想的な「丹波霧」など自然の恵みにより、良質な農産物が育まれています。 篠山盆地は篠山市の一部です。古市地区、今田町、大山地区、草山地区など、そして私たちの住む地域も篠山盆地にはありません。篠山盆地の中央だけが肥沃な土地ではありません。この文は城下町回りだけが篠山市であるような見方から書かれています。意識もせず書いたのでしょうか。いかがですか？</p>	<p>はじめにの記述は、篠山市の地勢や地形、文化の特徴が分かる表現としています。</p>